

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報

## 現在の流行状況

### **伝染性紅斑(りんご病)が引き続き警報レベルです！**

熊本市における第49週(11月30日～12月6日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、2.50人(定点数16ヶ所、患者報告数40人)となり、5週連続で国の警報レベル(開始基準値2、終息基準値1)を超えており、平成27年で最も多い報告数となりました。

伝染性紅斑(りんご病)は、5～9歳の学童に最も多く発生し、次いで0～4歳に多く見られる感染症です。ていねいな手洗いやうがいを行い、感染予防に努めましょう。

○感染経路：咳のしぶきやくしゃみにより感染します。

○症状：頬に発疹が出る7～10日位前に、微熱やかぜ症状などが見られ、1週間くらいでよくなることが多いです。

発疹が出て、頬が赤くなるころには感染力はほぼ消えます。大人がかかると、関節痛や関節炎を起こすことがあります。感染しても症状が現れない状態(不顕性感染)も、一定程度(約4分の1)存在します。

○治療法：対症療法を行います。

○予防方法：ていねいな手洗いやうがいを行いましょう。また、妊娠初期の感染について、流産の危険性も指摘されていますので、妊娠している人は流行時には人混みを避けましょう。

### **インフルエンザの流行に備えましょう**

インフルエンザは、例年これからの時期に流行し始め、1月から2月にかけてピークとなります。38℃以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛などの症状が突然現れます。外出後のていねいな手洗い、流行前のワクチン接種、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取などを行い、感染を予防しましょう。

期 間		平成27年 第48週		平成27年 第49週	
		11/23～11/29		11/30～12/6	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	1	0.04
RSウイルス感染症		36	2.25	34	2.13
咽頭結膜熱(プール熱)		6	0.38	13	0.81
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		31	1.94	41	2.56
感染性胃腸炎		77	4.81	99	6.19
水痘(みずぼうそう)		4	0.25	4	0.25
手足口病		8	0.50	10	0.63
伝染性紅斑(りんご病)		19	1.19	40	2.50
突発性発しん		7	0.44	10	0.63
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		1	0.06	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		6	0.38	13	0.81
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		24	4.80	19	3.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		3	0.60	4	0.80
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		2	0.40	0	0.00